

リモテラスのこれまでの経過について

時期	計画名称、実施内容	事業費(円) (委託費)	内容	成果	審議機関・主体	イベント参加者	担当課
平成20年度	第5次長久手市総合計画(平成21年度～平成30年度)		主要プロジェクトとして「リモテラス構想※」を位置づけた。 ※長久手古戦場駅前にまちの新たな顔として「リモテラス」を整備し、住民の日常の暮らしを支え、訪れる人をもてなす空間を創出すること。	同左	総合計画審議会 20人 会議 4回		企画政策課
平成27年度	リモテラス公益施設(仮称)整備基本計画	4,903,200	公益施設の位置づけ、施設コンセプト(新たなつながりをデザインする場)、関連する4つのテーマ(大学連携、観光交流、多文化共生、子育て支援)、施設整備の基本方針(開放感、未完の場、連携構造、環境への配慮)を定めた。	同左	リモテラス公益施設整備基本計画策定委員会 10人 会議 4回	シンポジウム 2回	
平成28年度	リモテラス公益施設(仮称)詳細計画業務委託	5,616,000	施設の基本設計を行うため、公募型プロポーザルを実施。なでラボを活用し施設運営等を行う仕組みを提案した(株)東畑建築事務所が選定されたが、ハコモノ先行型の施設整備となってしまうまい、まずはリモテラス公益施設をジブゴトとして考えてくれる市民を増やし、ゆくゆくは運営に関わってもらうことを念頭に、当初1年で考えていた管理・運営準備期間を3年に延長するスケジュールに変更した。そのため、平成28年度は委託名目を変更し、設計に係る前提条件の整理と、次年度以降の進め方についてまとめた。	設計プロセスに市民が関われる機会を設けることとなった。	コンサル(東畑建築事務所 久保、ライフワーク内海)、有志メンバー(なでラボ)		たつせがある課
平成29年度	リモテラス公益施設(仮称)運営組織育成支援業務委託	5,259,600	運営主体の育成、運営体制の検討・構築及びリモテラス公益施設(仮称)整備に関して主体的に関わってくれる市民を発掘することを目的として実施。100プロジェクトを中心に事業を展開。	若者を中心とした市民の実証実験(100プロジェクト)が行われた。	メインミーティング 19回 225人 サテライトミーティング 10回 51人	100プロジェクト 16回 延べ515人	
平成30年度	①平成30年度リモテラス公益施設(仮称)運営組織育成支援業務委託 ②リモテラス公益施設(仮称)基本設計業務委託 ③平成30年度リモテラス運営市民ボランティア発掘業務委託	①3,283,200 ②7,020,000 ③ 897,000	基本計画以降、これまであまり関わりのなかった4つのテーマと協働して進めていくため、市民の発案でリモテラス運営協議会を組織。行政、設計者と連携し、ながくて隣人まつりと題した設計WSや関係団体等へのヒアリングを実施し、リモテラス公益施設(仮称)の基本設計を行った。	自主的な市民による検討団体「リモテラス運営協議会」が発足した。	リモテラス運営協議会 20人 会議 4回	ながくて隣人まつり 8回 延べ1,576人 ヒアリング 24団体 102人	
	第6次長久手市総合計画(2019年度～2028年度)		基本目標⑤「いつでもどこでも誰とでも広がる交流の輪」にリモテラスに関する記述あり。政策②「観光交流まちづくりの推進」(1)「観光交流スタイルの確立」で、リモテラスを整備し、賑わいを創出するとの記載あり。	リモテラスの整備が明記された。	総合計画審議会 18人 合計7回(H29.8～H31.1)		経営企画課
令和元年度	①リモテラス公益施設(仮称)実施設計業務委託 ②リモテラス運営協議会負担金	①22,000,000 ② 2,937,000	平成30年度に立ち上がったリモテラス運営協議会の体制が整ったため、負担金を納入し、主体的な自主事業をスタートすると同時に、施設の管理運営方法及び実施設計に着手。	公益施設の設計及び管理運営が市民主体で検討されている。	平成30年度から継続※ 構成メンバーが若干変更あり) 17人		たつせがある課

※ 着色したセルは上位計画